

専任教員の教育・研究業績

所属	職名	氏名	大学院における研究指導担当資格の有無	有	
スポーツ科学部	教授	石川昌紀			
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日（期間）	概要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					
学生による授業評価を実施（トレーニング実技）		平成20年度より	授業内容による要望は今まで特にないため、例年、最新のトレーニングに関する知見を提供することに努めている。また、個々の技能能力に差があるため、TAをつけ個別対応できるようにしている。		
2 作成した教科書、教材、参考書					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
(1)健康運動指導士養成講習会 講師		令和5年より			
(2)高大連携事業 大阪府立大塚高等学校 体育科 体育研究 講師		平成23年より			
(3)高大連携事業 大阪府立高槻北高等学校 教志入門 講師		平成24年より			
II 研究活動					
原著論文（審査機関を有する学術誌に掲載の論文に限る。学会抄録等は含めない。）					
題名	著者	誌名	巻	初（始）頁～終頁	発行年月
Quantification of Extramyocellular Lipids and Intramuscular Fat from Muscle Echo Intensity in Lower Limb Muscle	Piponnier E, Ishikawa M, Kunimasa Y, Sano K, Jagot K, Boisseau N, Kurihara T, Martin V.	Sensors	23巻	1頁～12頁	令和5年
Is the muscle-tendon architecture of non-athletic Kenyans different from that of Japanese and French males?	Kunimasa Y, Sano K, Nicol C, Barthelemy J, Ishikawa M	J Physiol Anthropol.	42巻	1頁～5頁	令和5年
Muscle-tendon architecture in Kenyans and Japanese: potential role of genetic endowment in the success of elite Kenyan endurance runners.	Kunimasa Y, Sano K, Oda T, Nicol C, Komi PV, Ishikawa M.	Acta Physiologica	235巻	1頁～12頁	令和4年
アキレス腱断裂経験者における断裂経験脚のアキレス腱の弛みと力学的特性.	小田啓之, 佐野加奈絵, 信江彩加, 国正陽子, 石川昌紀	大阪体育学研究	60巻	21頁～30頁	令和4年
Limb-specific features and asymmetry of nerve conduction velocity and nerve trunk size in human.	Nobue A, Kunimasa Y, Tsuneishi H, Sano K, Oda H and Ishikawa M	Frontiers in Physiology	11巻	1頁～9頁	令和2年
Lower complexity of motor primitives ensures robust control of high-speed human locomotion	Santuz A, Ekizos A, Kunimasa Y, Kijima K, Ishikawa M, Arampatzis A	Heliyon	6巻	1頁～12頁	令和2年
下腿三頭筋・腱の発達からみた「はだし保育」の影響	山田一典, 浦田達也, 怡土ゆき絵, 清水洋生, 榎本翔太, 吉塚亮一, 石川昌紀	チャイルド・サイエンス	20巻	40頁～44頁	令和2年
幼児期における25m走、立ち幅跳び、両足連続跳び越しの測定記録と下腿三頭筋・腱形態の関係性.	山田一典, 清水洋生, 栗原佑奈, 塚田夕絵, 石川昌紀	子ども学研究論集	6巻	1頁～11頁	令和2年
日本代表候補パラバドミントン立位クラス男子選手の形態特性	兒玉友, 久野峻幸, 佐野加奈絵, 石川昌紀, 小田俊明	アダプテッド・スポーツ科学	18巻	3頁～11頁	令和元年
Muscle-tendon interaction during human dolphin-kick swimming.	Sano K, Sakamoto T, Nishimura R, Danno Y, Komi PV, Ishikawa M	Front. Physiol.	10巻	1頁～8頁	令和元年
学会発表（「国際学会」、「国内学会（一般演題、シンポジウム、課題研究、講演等）」、「研究会」等区分を記入）					
区分	年月	学会名	演題名	場所	発表者名
講演・シンポジウム					
国際	令和元年7月	1080 Summit 2021	Mechanics of Assisted Sprint Running.	Stockholm, Sweden	Ishikawa M

国際	令和元年7月	24th annual Congress of the European College of Sport Science	Neural inhibition versus damage effects: how can they be distinguished?	Prague, Czech Republic	Nicol C, Ishikawa M.
国際	令和元年2月	International Research Forum on Biomechanics of Running-specific Prostheses,	Specific musculoskeletal characteristics for runners with and without running-specific prostheses.	Tokyo, Japan	Ishikawa M, Kunimasa Y, Makino A, Kitano Y, Sano K.
国内(シンポ)	令和5年11月	第34回日本臨床スポーツ医学会学術集会	マスタース陸上競技選手の神経・筋機能特徴と運動機能変化.	神奈川県, 日本	石川昌紀, 佐野加奈絵, 貴嶋孝太, 信江彩加
国際	令和2年7月	25th Annual Congress of European College of Sport Science	Lower complexity of motor primitives ensures robust control of high-speed human locomotion.	Sevilla, Spain	Santuz A, Ekizos A, Kunimasa Y, Kijima K, Ishikawa M, Arampatzis A.
国際	令和元年8月	XXVII Congress of the International Society of Biomechanics,	Neuromechanical modulation during bilateral hopping in patients with unilateral Achilles tendon rupture.	Calgary, Canada	Ishikawa M, Oda H, Sano K, Kunimasa Y
国際	令和6年3月	ARIHHP Human High Performance Forum 2024	Relationship between maximal lactate accumulation rate and sprint performance parameters in competitive swimmers.	Tsukuba, Japan	Sengoku Y, Shinno A, Kim J, Hirai N, Ishikawa M.
国際	令和5年9月	12th International Conference on Strength Training	Effects of psoas major muscle hypertrophy on respiratory function for long-distance running performance with thick-soled carbon shoes.	Jyvaskyla, Finland	Ishikawa M, Nobue A, Sano K, Kitano Y
国内研究発表 9題, 国際研究発表 13題 (2019-2023年度)					

科学研究費等の取得状況

科学研究費/その他の助成金/外部資金

区分	種類	題目	代表・分担の別	期間	助成額 (期間内の総額)
科学研究費	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化)	ヒト身体運動における多様なアキレス腱の機能特性の解明	代表	2016-2019	13,780千円
科学研究費	挑戦の萌芽研究	泳運動の動作と力発揮調整機序の解明	代表	2016-2019	3,770千円
科学研究費	基盤研究(B)	競技スポーツ種目特有の筋腱・骨格形態と二関節筋の機能的役割	代表	2017-2021	17,160千円
科学研究費	日本学術振興会ひらめき☆ときめきサイエンス	“走りに関する筋肉と動きを測定・分析し、科学的に走力アップにチャレンジ!”	代表	2019	440千円
科学研究費	日本学術振興会ひらめき☆ときめきサイエンス	自らの筋肉と動きを測定・分析し、科学的に走力アップにチャレンジ!	代表	2021	500千円
科学研究費	日本学術振興会ひらめき☆ときめきサイエンス	科学で走りのパフォーマンスアップ!	代表	2022	490千円
科学研究費	日本学術振興会ひらめき☆ときめきサイエンス	スポーツ科学を学び、走って、測定、分析、体得!	代表	2023	470千円
科学研究費	日本学術振興会ひらめき☆ときめきサイエンス	自らの筋肉と走りを測定・分析し、科学的に走力アップにチャレンジ!	代表	2024	500千円
外部資金	企業受託事業費	アスリートのサポート・機器開発費 9社	代表	2019	2,500千円
外部資金	企業受託事業費	アスリートのサポート・機器開発費 9社	代表	2020	2,800千円
外部資金	企業受託事業費	アスリートのサポート・機器開発費 5社	代表	2021	5,100千円
外部資金	企業受託事業費	アスリートのサポート・機器開発費 2社	代表	2022	5,400千円
外部資金	企業受託事業費	アスリートのサポート・機器開発費 2社	代表	2023	5,400千円

特許

特許名称	発明者/出願人	出願日/出願番号	公開番号	取得した場合 ⇒	公告・特許番号	国
マッサージ装置及びクッション	石川 昌紀, 国正 陽子, 大内 聡	2019/7/29	特願2019-138855		特開2021-019929	日本

Ⅲ 加入学会および社会における活動

期 間	内 容
加入学会	
平成14年4月～	A member of European congress of sport science (ECSS), European Journal of Sport Science, Associate editor (H29-)
平成17年4月～	A member of American college of sports medicine (ACSM)
平成21年4月～	日本体育学会 会員, International Journal of Sport and Health Science, Section editor (H29-)
平成25年4月～	日本体力学会 会員

平成24年4月～	日本トレーニング科学会 会員 理事(2019-2022), 編集委員(2020-)		
平成22年4月～	大阪体育学会 会員 理事(2010-2022)		
平成30年1月～	Journal Frontiers in Sports and Active Living, Editorial board of Biomechanics and Control of Human Movement		
社会的活動			
平成29年4月～	大阪府立大塚高等学校 学校協議会委員		
平成29年4月～	中央大学陸上部ハイパフォーマンスサポート		
IV 管理活動			
期 間		内 容	
委員会活動			
平成27年4月～	国際・地域交流委員会委員		
平成27年4月～	入試委員会委員		
令和5年4月～	研究推進委員会委員長		
特別プロジェクト活動			
V クラブ活動の指導業績			
1. 指導クラブ名	部	2. 役職	3. 部員数 人
4. 現場指導の頻度	選択 ① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない		
5. 合宿指導	年間合宿回数:	回	延べ日数: 日
6. クラブの競技力向上への取り組み	選択 ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	選択 ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
8. 部員の就職指導への取り組み	選択 ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
9. 年間の引率公式大会名	大会名	期 間	場 所
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)			
開催期間	大会名	成績	場 所
VI 賞罰(職務に関する賞罰)			
年 月	受賞等機関名	内 容	備 考